

伊豆箱根鉄道駿豆線に渋沢栄一から贈られた言葉があった！ 修善寺駅開業 100 周年記念展示 「渋沢栄一と駿豆鉄道」開催のお知らせ

伊豆箱根鉄道株式会社(本社:静岡県三島市、代表取締役社長:伍堂 文康)では、本年8月1日に修善寺駅が開業 100 周年を迎えることを記念し、7月3日から発行される新1万円札の顔となる渋沢栄一が、105年前に当社(当時:駿豆鉄道)へ揮毫した題字に関する記念展示「渋沢栄一と駿豆鉄道」を下記のとおり行います。

記

1. 修善寺駅開業 100 周年記念展示「渋沢栄一と駿豆鉄道」

(1) 展示期間: 2024年7月1日(月)~8月31日(土)

(2) 展示場所: 駿豆線修善寺駅改札内

(3) 展示内容: 「駿豆鉄道案内」(*)に渋沢栄一が揮毫した題字に関する説明パネル

※ 「駿豆鉄道案内」とは…

当社の前身、駿豆鉄道が鉄道を全線電化、運行本数を増やして駿豆線の基礎をつくった際に出版した地域の魅力を紹介した案内書です。

2. 渋沢栄一について

渋沢栄一は、「日本資本主義の父」「近代日本経済の父」と称され、明治から大正にかけて 500 社を超える会社や法人の設立に関わり、うち 40 社を超える鉄道会社に関わったとされています。

「駿豆鉄道」は、渋沢栄一と資本的なつながりはありませんが、会社が鉄道事業を整備し、これから新しいスタートというときに渋沢栄一より題字を揮毫いただきました。



出典: 近世名士写真頒布会

公表日: 1935年(昭和10)

3. 当社の前身 駿豆鉄道について

駿豆鉄道は 1917 年(大正6)、水力発電会社「富士水電」から鉄道事業を譲渡され創立しました。

(1) 三島一大仁間の蒸気鉄道を 1918~1919 年5月に全線電化

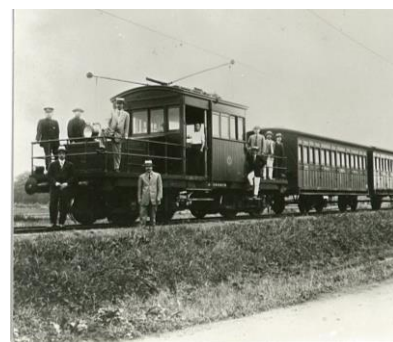
電化で車両を増やし、営業収入を伸ばすことを目的とし、中古車両を中心に、大阪高野鉄道(現・南海高野線)などから車両を譲受しました。



大阪高野鉄道からの譲受車両

(2) 駿豆線 修善寺に延伸

1921年電気機関車3両を東洋電機製造から初めて新車を購入しました。
大仁―修善寺延伸を1922年(大正11)から着手し、鉄道の近代化を推進し、現在の駿豆線の礎を築きました。



東洋電機製造から初めて購入した新車

(3) 駿豆鉄道案内 「名勝乃志を里(しおり)」

三島―大仁間の全線電化工事が終了した後、大仁から修善寺に延伸工事着工を目指すため、1919年(大正8)5月に沿線などの名勝や鉄道の営業案内を掲載したガイドブックを発行しました。

この案内では、南條駅を伊豆長岡駅に、北條駅を韭山駅に改称、伊豆長岡温泉・修善寺温泉をメインに韭山反射炉、三津海水浴場などを紹介しています。その際、政財界の名士から題字や和歌などを揮毫いただいている中、渋沢栄一からも題字を揮毫いただいております。



駿豆鉄道案内

出版年: 1919年(大正8)

4. 修善寺駅の歴史

1919年(大正8)11月	大仁―柏久保修善寺間の鉄道敷設申請
1922年(大正11)	工事着工
1924年(大正13)8月	工事完成、修善寺駅開業
1933年(昭和8)5月	東京方面から普通列車に併結して来た鉄道省の客車が修善寺乗入開始
1983年(昭和58)4月27日	二代目 駅舎完成
2013年(平成25)10月5日	三代目 駅舎供用開始

以上